

教育改善スキル修得オンラインプログラム 第三弾「FD 活動デザイン編」の構想

Conception of Educational Reform Skill Learning Online Program:
3rd Course on Designing Faculty Development Activities

鈴木克明^{*1}・喜多敏博^{*1}・平岡斉士^{*1}・合田美子^{*1}・長岡千香子^{*1}・山下 藍^{*1}・張 曉紅^{*1}・宮下和子^{*1}
Katsuaki Suzuki^{*1}, Toshihiro Kita^{*1}, Naoshi Hiraoka^{*1}, Yoshiko Goda^{*1}, Chikako Nagaoka^{*1}, Ai Yamashita^{*1},
Xiaohong Zhang^{*1}, Kazuko Miyashita^{*1}

^{*1}熊本大学教授システム学研究センター

^{*1}Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

〈あらまし〉 アフターコロナに備えた次世代の大学教員になるための準備が急務である。教育関係大学間共同利用拠点として本センターが提供するオンライン研修の一環として準備中の「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第三弾「FD 活動デザイン編」の構想を概観する。FD 活動デザイン編は、大学でFD活動を推進する教職員を対象とするオンライン講座で、当センターのFD活動支援の実績と教育工学の知見をもとに5つのモジュールで構成する。モジュールごとに準備を進め、無料版を順次公開し、今年度末までに履修証明制度による有料版の開始を目指している。

〈キーワード〉 インストラクショナルデザイン、FD、高等教育、教育改善スキル

1. はじめに

アフターコロナに備えた次世代の大学教員になるための準備が急務である。熊本大学教授システム学研究センターは、2018年度に「教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点」として文科省教育関係大学間共同利用拠点としての認定を受けた。2019年3月より、日本全国の大学教員と大学院生を対象として提供するオンライン研修の一環として構想した「教育改善スキル修得オンラインプログラム」の第一弾「科目デザイン編」と第二弾「自律学習支援編」の無料版・有料版を公開した(鈴木ほか2019, 2020)。eラーニング専門家養成のオンライン大学院教授システム学専攻での教育実践とその背景にあるインストラクショナルデザイン(以下、ID)を研究してきたことを背景に、これまでの多くの大学における教職員職能育成プログラム(FD)が現在の大学での職能を発揮することに留まっていると考えられる限界を意識し、現状への適応ではなく次世代の大学を構築していく教員になる準備と位置づけた挑戦的な内容とすることを目指したものである。

本発表では、これらの一般大学教員・大学院生向けのFDに加えて、第三弾として各大学のFDを担当する教職員を対象として企画し、一部公開を開始した「FD活動デザイン編」の構想について、構成と提案の一部を紹介する。

2. 「FD活動デザイン編」の構成

教育改善スキル修得オンラインプログラム「FD活動デザイン編」はこれまでと同様に5つのモジュールで構成した(表1)。モジュール1では、特にコロナ禍で日常が中断された大学教育を念頭に(鈴木・平岡2021)、大学をワンランクアップする手掛かりとなるような5つの物語を

紹介し、「FDはこのままでいいのか」についての意見交換をする機会を設定した(表2参照)。

それに続くモジュール2~4では、FDの3つの側面についての提案を7つずつ示す構成にする予定にしている。モジュール2では、すでにセンターとして公開済みの提言(熊本大学教授システム学研究センター2021a)をもとに、FD活動の評価指標(KPI)設定にかかわる提案をまとめ、FD活動が目指す目的を合意して成果をアピールする方策をまとめる。開催実績や参加者数・参加率だけではなく、何を目指してFD活動を展開するのかを意識し、カークパトリックの評価の4段階モデルや先進事例調査の成果(鈴木ほか2011)などを参考に、その達成度を明らかにするための提案とする。モジュール3では、すでにセンターとして公開済みの提案(熊本大学教授システム学研究センター2021b)をもとに、年1回の講演会のようにイベント化しているFD研修を超える7つの提案をまとめ、KPIを達成するための手段をより幅広く捉える手助けとする。手ぶらで参加できる研修や「お勉強」で終わってしまう研

表1:「FD活動デザイン編」の5つのモジュール

モジュール1:FDはこのままでいいのか(大学のワンランクアップに向けて)
モジュール2:FD活動のKPI(評価指標):FD活動をアピールするための7つの提案
モジュール3:FD研修のバージョンアップ:年1回の講演会を超えるための7つの提案
モジュール4:ラーニングコモンズの活動を設計する:授業以外の学習支援の7つの提案
モジュール5:最終課題:自己変革への行動計画を立てる(有料版のみ)

修を超えて行動変容に直結させる方法（鈴木2015）を反映した内容にする。モジュール4では授業改善以外の学習支援の方策を7つの提案にまとめ、キャンパス閉鎖でオンライン学習を体験した学生を再びキャンパスに呼び戻すための方策をデザインする際の参考にしてもらう。

モジュール5では、これらの検討結果をまとめ、自大学でのFD活動をどのように進めていくかを検討し、その実現に向けての行動計画を立案・検討・修正する最終課題とする予定である。

3. おわりに

一般教員・大学院生を対象としたこれまでの2つの「科目デザイン編」や「自律学習支援編」とは異なり、今回構想した第三弾は、FD活動を担当する教職員を対象としている。他方で、これまでと同様、自動採点が可能な部分は無料公開し、それ以外を履修証明制度の枠組みで有料講座化する計画である。無料公開部分には、情報リソースの提供だけでなく、理解度を確認するためのクイズや、学習状況証明書の自動発行などが含まれる。興味を持った時点で学びを開始し、マイペースで進めることが可能になる。他方の有料版では「共に学ぶ仲間」を意識して学びあう関係を構築するために、年数回の開始時期を設定する。自動採点クイズの受験だけでなく、自組織に応用した場合のレポートについて相互評価と添削指導が含まれ、履修証明制度に基づく修了証が交付されることになる。

FDが義務化されて長い年月が経過したが、大学における教育の質保証・向上になかなかつなげていかないもどかしさがある。他方で、プレFDは「努力義務化」され、大学教員を目指す大学院生に対して何らかの準備教育が義務化され

る日が近い。アフターコロナに向けた教育の質向上が個々の教員の努力に任されるのではなく、大学全体としてのFD活動が組織的に計画・実行され、教育の質を高める中核的な機能を持つようになり、その組織に新任教員が入っていくという図式が成り立つために、本取組がFDを担当する教職員の一助になればと願っている。

参考文献

- 鈴木克明(2015)『研修設計マニュアル:人材育成のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房
- 鈴木克明・平岡齊士(2021.3)「ICTを活用した授業デザイン原則の提案-交流距離理論の足場かけ総量再解釈に基づいて-(特別寄稿)」『名古屋高等教育研究』第21号, 143-165
- 鈴木克明・喜多敏博・平岡齊士・長岡千香子(2019.9)教育改善スキル修得オンラインプログラム(科目デザイン編)の構想と無料版・有料版の公開. 第44回教育システム情報学会全国大会(静岡大学)発表論文集, 425-426
- 鈴木克明・喜多敏博・平岡齊士・長岡千香子・山下藍・張曉紅(2020.9)教育改善スキル修得オンラインプログラム第二弾「自律学習支援編」の構想. 第45回教育システム情報学会全国大会(オンライン)発表論文集, 51-52
- 鈴木克明・美馬のゆり・山内祐平(2011.3)大学授業の質改善以外の学習支援にどう取り組むか:学習センター関連資格制度についての米国調査報告. 日本教育工学会研究論文集 11-1:181-186
- 熊本大学教授システム学研究センター(2021a)「FD活動の客観的な成果分析の枠組みについての提言」<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/rcis-2/proposal/proposal-2/>
- 熊本大学教授システム学研究センター(2021b)「講演型FD研修会を脱却するための研修モデルについてのご提案」<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/rcis-2/proposal/proposal-2/>

表2: モジュール1「FDはこのままでよいのか」の5つの物語

5つの物語	必読文献
物語1:問題提起:IDはFD担当者の仕事に役立つか?	鈴木克明(2009.12) ファカルティ・ディベロッパーのID的基礎とは何か 日本教育工学会研究会報告集(FDの組織化・大学の組織改革/一般), JSET09-5, 45-48
物語2:FDの義務化はどのように始まり、何をもたらしたか	文科省(2020)「 平成30年度大学改革状況調査 」 ベネッセ(2017)「 第3回大学生の学習・生活実態調査:08年→16年の学生変化 」
物語3:FDマップ:FDがカバーする範囲はどこまでか?	鈴木克明(2013)【連載】ヒゲ講師のID活動日誌(46)～ 中国における大学教員開発:国際FDカンファレンス2013参加報告 ～ IDポータル(熊本大学)
物語4:先進事例訪問記:授業以外の学習支援を求めて(米国)	鈴木克明(2011)「[寄稿] 学びやすい環境を大学につくる:ラーニングコミュニティとチューター承認制度<上><下> 」教育学術新聞(教育学術オンライン)第2428・2429号
物語5:大学におけるID専門家養成の体系化を目指して	鈴木克明・市川尚・高橋暁子・竹岡篤永・根本淳子(2019.9) 大学版ID専門家養成上級ワークショップの構想とその体系化 . 日本教育工学会第35回全国大会(名古屋国際会議場)発表論文集, 85-86